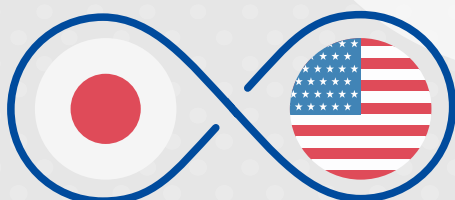




米国大学院での
留学や研究をめざす方へ

フルブライト 奨学金

を知っていますか？



「フルブライト・プログラム」は、米国と諸外国との相互理解をめざし、

半世紀以上にわたって運営されてきた人物交流事業です。

「フルブライト奨学金」は日米両政府による拠出金を運営資金とし、

日米の相互理解に貢献できるリーダーを養成することを目的とした、

国際的な評価を得ている一般公募の給付型奨学金制度です。

フルブライト奨学金とは？

● フルブライト・プログラムの歴史

「フルブライト・プログラム」は1945年、「世界平和を達成するためには人と人との交流が最も有効である」との信念のもとに、ウィリアム・フルブライト上院議員が米国議会に提出した法案に基づいて発足した、米国と諸外国との相互理解を目的とする人物交流事業です。

日本におけるフルブライト・プログラムは開始以来、約30年にわたり米国政府からの資金で運営されていましたが、1979年に日米教育委員会が設置され、日本政府も運営費用を分担するようになりました。現在は政府資金に加え、民間企業や団体、個人からも資金援助を受けています。

米国で発足した本プログラムは、世界で最も知られた権威ある人物交流事業として発展し、これまで半世紀以上にわたり日本を含む約160カ国以上からの40万人以上の人々に、研究や教育の機会を提供し、あらゆる分野のリーダー育成に大きな役割を果たしてきました。フルブライターと呼ばれる同窓生の多くは、教育、行政、法曹、ビジネス、マスコミ等のさまざまな分野で活躍しています。

● 目的

- 奨学生の専門分野の研究を進めるための財政的援助
- 日米の相互理解に貢献できるリーダーの養成

● 奨学生に期待されること



各自の研究活動を行うだけでなく、留学先や地域社会・文化等の様々な活動に積極的に参加することで日米両国に対するより一層の知見を広めること



同窓生として専門性の高い職業あるいは私的な活動を通して、直接的・間接的に日米関係の向上に貢献すること



J.ウィリアム・フルブライト上院議員

教育交流は、「国家を人々に変える」、すなわち国際関係を人間的にすることができます。それは他のどんなコミュニケーション手段もできないことです。私は教育交流が人々の間に必ず友好的な感情をもたらすものだとは思いませんし、またそれを目的とすべきだとは思いません。ただ、人間として共通の感情を喚起できること、言いかえれば、他の国々に自分達が恐れる教条があると理解するのではなく、自分達の国で育った人々と同じように喜びや悲しみ、残酷さや優しさを共感できる人々が住んでいる、ということが実感できれば充分だと考えます。

数字で見る

フルブライト・ジャパン



フルブライト・プログラムの
実施国数
(米国と諸外国間)

160カ国以上



日本から米国への
フルブライト留学生
(1952年～2024年)

6,700人以上



ノーベル賞受賞者数

6人

※日本人フルブライター4人、
米国人フルブライター (日本に留学) 2人



日本の大学学長数

150人以上

START

アメリカの大学院で
学位を取得したい

NO

現在、
日本の大学院生

NO

大学院留学プログラム

大学院博士論文研究プログラム

【研究者の方】▶ 研究員プログラム

【ジャーナリストの方】▶ ジャーナリストプログラム

【英語教育に携わりたい方】▼
フルブライト語学アシスタント (FLTA) プログラム

大学院留学プログラム

【採用予定数：約20名】

※「大学院博士論文研究プログラム」を含む

フルブライト交流事業の目的を十分理解し、人格面および学業面で優れた者に米国大学院での研究の機会を提供します。
米国の大学院博士課程・修士課程に正規の学生として在籍し、学位取得をめざします。



〈対象者〉

1. a) ~ c) のいずれかに該当する者。

- a) 将来日本の大学または大学附置の研究機関で教職または研究職を志望する日本の大学院在籍者、学士号取得見込み者。
- b) 博士号を持たない日本の大学教員、研究者。
- c) 社会人で培った経験・知識を大学院レベルの勉強に生かすことのできる者。
将来、その経験を日本社会に還元する意思のある者で特に優秀な者。

2. 2026年3月31日以前に学士号を取得していること。

3. 米国在住経験の少ない者を優先する。

※下記に該当する者は対象から除く

- ・すでに博士号を取得している者、渡米前もしくは渡米中に日本の大学より博士号を取得予定の者。
- ・すでに米国大学院の修士・博士課程の経験があり（在籍年・レベルは問わない）、残りの課程修了を目的とする者。
- ・米国外（日本含む）の大学院に在籍し、在籍大学院と提携米国大学院でのダブル・ディグリー取得を目的とする者。
- ・医学校・歯科学校においてインターンまたはレジデントとしての研修およびリサーチを目的とする者。

〈英語能力〉

TOEFL iBT：80点以上 / IELTS：6.0以上

※2023年7月2日以降に実施され、2025年7月1日までにスコアを提出できるTOEFLあるいはIELTSを受験すること。指定期間内のTOEFLあるいはIELTSを受験できない場合は失格となります。

※語学力に応じて、米国での夏期オリエンテーションへの参加が要請されることがあります。

〈対象となる学術分野〉

人文科学 / 社会科学 / 自然科学 /
応用科学（工学を含む）

※上記複数の分野にわたる学際的分野も対象となります。

大学院留学プログラム フルブライトストーリー

2021年度

鳥海陽史

留学先▼

Harvard University

分野▼

Urban & Regional Planning



デザイン会社でのインターン風景

フルブライト奨学金はインターネット検索で知りました。退職し、家族を連れて留学するには、奨学金なしでは金銭的に厳しい状態でした。フルブライト奨学金は学費と生活費が手厚いという魅力に加え、フルブライターのネットワークが強いと知り、その仲間に入ってみたというのが大きなモチベーションになりました。

留学中には、新しい考えとの出会いがありました。アメリカ社会では、一生ひとつの会社に勤めるといよりも「キャリアは自分でつくる」という考えがあります。スキルを身につけ、そのスキルに合う仕事でさらに磨きをかけてステップアップする。そうした「キャリア形成」への自覚が生まれたのは大きな収穫でした。

留学を終え、今後は、都市計画とデータサイエンスを融合したアーバンサイエンスという新領域の研究に挑みたいと考えています。

大学院博士論文研究プログラム

【採用予定数：約20名】

※「大学院留学プログラム」を含む

日本の大学に博士論文を提出することを目的として、優れた研究者を対象に、米国高等教育機関あるいは研究所などで研究指導を受ける、または米国での現地調査などの機会を提供します。

※大学院レベルのゼミを聴講することはできますが、単位取得のための科目履修はできません。



研究員プログラム

【採用予定数：約10名】

当委員会があらかじめ定めた学術分野で、各自のテーマの専門知識を発展させ、また深めるためのプログラム。米国高等教育機関あるいは研究所などで米国人教授・研究者の協力のもとで研究を行います。

- ※学位取得を目的とすることはできません。
- ※大学院レベルのゼミを聴講することもできますが、単位取得のための科目履修はできません。

ジャーナリストプログラム

【採用数：若干名】

当委員会があらかじめ定めた学術分野で、各自の専門知識をさらに深めるために研究を行うためのプログラム。米国高等教育機関あるいは研究所などで学位取得を目的としない研究を行います。

- ※ジャーナリストとしての技術面の研修を目的とすることはできません。
- ※帰国後、米国の経験に関する記事を新聞や雑誌などに寄稿することが求められます。

フルブライト語学アシスタント (FLTA) プログラム

【採用数：若干名】

※日米教育委員会から推薦されても最終的に全員が派遣されるとは限りません

アメリカの大学で9カ月間日本語を教えながら、

- ✓ 英語教授のスキルを高めること
- ✓ 自身の英語能力を高めること
- ✓ アメリカの文化や習慣についての知識を深めること

を目的としたプログラムです。※学位取得を目的とすることはできません。

〈求める人物像〉

- 日本語、英語ともにコミュニケーション能力の高い人
- 物事に真摯に向き合い、誠実な人
- 積極的で環境適応能力がある人
- 分別があり、教えることにプロ意識をもつ人
- リーダーシップがあり、学生に学ぶ意欲を持たせ、アメリカの地域社会に母国の文化・社会を紹介できる人
- 創造力や自立心があり、チームプレイヤーとして派遣大学の教職員や学生と良い人間関係を保てる人
- 語学教員（アシスタント）と学生の役割を両立できる人
- プログラム終了後すぐに帰国し、FLTAとしての経験を日本の英語教育の現場で活かせる人

〈英語能力〉

TOEFL iBT : 79-80以上 / IELTS (Overall Score) : 6.0 以上

※2023年6月2日以降に実施され、2025年6月1日までに提出できるスコアレポートを提出すること。詳細はウェブサイトを参照。

〈応募資格〉

- ・日本在住で日本国籍を有すること。
- ・学士号取得者または見込み者（2026年3月31日以前）で、下記のいずれかに該当する者。
 - a. 英語教員免許保持者
 - b. 将来英語教育に携わる意志のある者
- ・現職教員の場合、教育経験7年以内の者からの応募を歓迎する。

フルブライト語学アシスタント (FLTA) プログラム

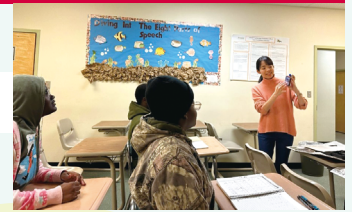
フルブライトストーリー

2023年度

玉越夕貴

派遣先 ▼

The University of Texas
at Dallas



Primary Teacherとして担当した日本語の授業

高校教員経験5年を経て、1年の休職期間でFLTAの経験をしたことは、一生分の価値がありました。世界中の人と繋がることができたことはかけがえのない財産です。

誰も知り合いがない環境で一から開拓し、英語で困難にも乗り越えたことは自信にも繋がりました。現地ですぐにできた友達には、日本から持参したたこ焼き器を使ってたこ焼きパーティーをしたり、ラーメンをふるまったりと、日本食のすばらしさも伝えました。

帰国する2日前には、自分の本音を話せ、全ての目標を後押ししてくれる大切な親友が Surprise party をしてくれました。夜は女子4人で川の字になって寝たり、空港まで見送りに来て泣いてくれたり。今の考えや将来のことをああでもない、こうでもないかと模索していることを伝えると一緒に悩んでくれました。

今後は英語の持つ力、魅力を、教員として生徒たちに共有していきたいと考えています。

詳しくはこちら ▶

<https://www.fulbright.jp/>



問い合わせ先

日米教育委員会（フルブライト・ジャパン）

〒100-0014 東京都千代田区永田町 2-14-2 山王グランドビル 207号

SOCIAL MEDIA

